



高陵山 光明寺寺報 第8号

令和元年 10月1日発行

発行 石狩市八幡町高岡 16-2 光明寺内

光明寺ホームページ

石狩 光明寺



年々異常気象が度合いを強めています。九州地方の避難を伴う集中豪雨や大型台風、熱帯化、本道では5月下旬に時季外れの猛暑、8月にも記録的な連日の猛暑。今も千葉県が台風15号により甚大な被害を受けています。現在この地に住む私たちは家を奪われることもなく、まして雨や雪が降り、日が照り暑くなることで稲が育ち、お米となって私たちの口へ運ばれ生きる糧となることを思うと、我一人の命は大いなる「お陰様」によって支えられていることに気付かされます。食事の言葉に「いただきます」がありますが、近頃、学校給食に関して保護者から「いただきます」や「ご馳走さまでした」を子供に言わせるのはおかしいのでは、という意見が寄せられるそうです。「いただきます」は人様に御馳走になったときに言うべきで、親が子の給食費を支払っているのだから言わなくてよい、というのが保護者の理屈です。米や野菜、肉や魚、そこには元々生命がありました。私たちはその命を食べて生きています。「いただきます」とは、私の命の為に犠牲となって下さった命へのお礼の言葉なのです。「南無阿弥陀仏」のお念仏も同様なのでは？私たちは縁者の死に会って改めて往く命を見つめ、往かれた命は阿弥陀様の導きによりお浄土で仏となります。葬儀始め年忌や月参りの仏事は亡き人が与えて下さった尊い仏縁です。亡き人は阿弥陀様の「お陰様」でお浄土に生まれ、私たちは亡き人の「お陰様」で己の命の往く先を知ります。食物が体の栄養ならば、お念仏は心を豊かに保つ栄養を、共にお陰様で報恩講のご縁をいただきましょう。それにしても「実るほど頭が下がる稲穂かな」とはなんと味わい深い言葉と、先人の観察力には頭が下がります。

本願寺前門主様ご臨席 門徒総代会全道大会



ほんがんじ もんしゅ
本願寺第 24 代門主

そく にょ しょう にん
即 如 上 人

おお たに こう しん
大 谷 光 真 様




前列右が前ご門主、即如上人
左は北海道教区教務所長兼札幌別院輪番、中尾了信様

6月20日、本山本願寺の

前ご門主である即如上人、大谷光真様ご臨席の下、「自ら聞法に励む総代となろう」をテーマに北海道教区総代会主催の研修大会が開催され、全道各地より400名を超える参加者を集め、当寺よりも住職、坊守、総代7名が出席し盛会にて行われました。中央区の本願寺札幌別院を会場に研修会が行われ、冒頭に前門様よりお言葉を賜りました。そのお言葉の中で「門徒総代という寺院の運営がまず浮かんできますが、その中で仏法聴聞、み教えを聞くことを大会のテーマに選定したことは素晴らしいことです。聞法とは阿弥陀様の心、南無阿弥陀仏をいただくことであり、その素晴らしさがわが身にはたらき、支え、導いて下さいます。格差社会の厳しい現代にこそ阿弥陀様の真実のお心をいただいて生きることの素晴らしさ、大切さを多くの方と分かち合わなければならないと思います。総代の皆様にはお寺の中心となり住職と共に歩まれることを願っています。」とありました。格差社会の厳しい現代とは、格差の広がりによって人と人との繋がりが希薄になったことで以前では考えられないような痛ましい事件が頻発しています。幼児虐待が多発し家族間で被害者と加害者が生まれ、面識のない人から金品や命までも奪ってしまう殺伐とした時代ともいえるのではないのでしょうか。総代の役割は前門様のお言葉の通り、寺門の方向性を審議、遂行することも勿論ですが、第一の役割とは、真宗の門信徒として親鸞聖人のみ教えとお念仏を後世に伝えるために、全門信徒の模範となるべく積極的にみ教えを聞く姿勢ではないのでしょうか。昨今は、社会でお寺の持つ役割や関心が薄れつつあります。そしてその流れはここ20~30年で急速に進んだようにも思えます。お念仏を歡ぶ総代の姿が人心荒廃と寺離れを食い止める為の一步になることと思います。当寺の総代は、法要や諸行事には率先して出席参加を戴き、総代会や全役員会の場でも各人の経験に基づく闊達な議論がなされ住職として非常に心強い限りです。研修会後は札幌パークホテルでのレセプションに移行し、上の写真はその時に前門様を囲み撮影をさせて戴いた1枚です。この機会とばかりに他寺院の総代さんも写真撮影に臨み、なかなか食事には手を伸ばせないご様子の前門様には大変申し訳ないながらも二度とない機会とばかりに当寺総代もお付きの方の制止をかいぐり撮影させて戴き、この上ない記念となりました。

10月20~21日予定のない方は報恩講に来て下さい!



浄土真宗本願寺派
高陵山光明寺

報恩講

ほろ おん こう
十月二十日(日)
二十一日(月)

令和元年

本年は日程を変更します。ご注意ください。

— 光明寺報恩講余興のお知らせ —

2019(令和元)年 10/20 (SUN/日) 19:30start

光明寺本堂：石狩市八幡町高岡 16-2/入場無料

第一幕 高岡手踊り同好会

第二幕 津軽名物すこっぷ三味線

B&B&G - 217TRIO LIVE



すこっぷ三味線とは、スコップを楽器に見立て音楽とリズムに合わせて
捻返してスコップを叩き、津軽三味線を真似て演奏する。昭和61年頃、
五所川原市在住の館岡風山(本名：高橋弘行、現津軽すこっぷ三味線
世界大会実行委員会会長)が、自身の経営する飲食店「ラブボーション」
で片手恵子の手恵っこよされて、スコップと捻返きを使い、三味線の
真似をしたのが起源と言われている。

第三幕 ハズしなびンゴ大会

門徒(檀家)さんでないので大歓迎!!
年に一度の報恩講に皆様お越し下さい!!

主催：高陵山光明寺

布教使

三笠市 善行寺住職 名和康成 師

春の永代経法要でお馴染みの若い布教使さんです



本年は天皇が即位され、その象徴的な行事である「即位礼正殿の儀」が例年の報恩講である22日に行われる為、お寺の報恩講日程を変更し、10月20日(日)と21日(月)の2日間行います。

本年は布教使に、三笠市より善行寺ご住職の名和康成師にお越し戴きます。御年40歳ほどのお若いご住職です。当寺の毎年4月に行われている春の永代経法要のご布教にここ数年毎年お越し頂き、分かり易く身近な話を聞かせてくれています。日程等は同封の御案内をご覧下さい。

20日の午前中には1年間にご往生されたご門徒の追悼法要が、午後からは大勢のご住職がお越しのなか、納骨堂の総追悼法要も行います。夜のお参りの後は御案内の通り余興が予定され、初のご縁でスコップ三味線をご披露戴きます。バンド名のB&B&G217とはバ●ア●バ●ア●ジ●イの頭文字で、217は3人の年齢を合計した数字だそうです。7歳と10歳と200歳です。出演者は当日までナイショです。普段お参りの経験がない方はなかなか足を運びづらいとは思いますが、2日間のうち都合のよい時間に、中抜けも中座も結構です。難しい顔をして座っていることはありません。

皆様の都合に合わせてゆるゆるとお参り下さい。ご飯を食べて、ビンゴの景品を貰って、お参りして宿泊もできます。

総代や全役員や壮年会、婦人会、寺族が準備に準備を重ねて、住職は皆様の目に留まるような案内チラシを試行錯誤で作成しお参り頂けることを願っています。他寺院のご門徒がおいでになりますので、当寺のご門徒はなおさらお参りしなければ示しが…。

「私、不信心なもので…」

御門徒宅へお参りに行き
お寺での法要・法座へお誘いすると
上の言葉が返ってくるのがよ～くあります。
ただ、その言葉を聞くたびに違和感を覚えます。
「不信心だからお寺へ行かない」というのはまるで
「体が悪いところだらけなので病院へは行かない」と
言っているのと同じなのでは?
文法上の理屈が通っていません。
私たちは、体の調子が悪いから…足腰が痛いから、
自分ではどうにもならないから病院を頼ります。
同様に、亡き父母や兄弟姉妹、亡き友人の命は一体どこへ?
一番大事な自分の命の行く先は?
それがわからないからこそお寺へ足を運び、
わが命の行く先を聞くのです。
お参りに誘われたとき、皆さんの正しい答えは、
「私は不信心だからこそお寺へ参ります!」の一言です。

浄化槽設置を伴う排水工事の浄財御寄進の御礼

この度、ご門徒の皆様にはお寺の標記工事に際し、今秋に増税を控えるなど経済事情が厳しさを増す折にも関わらず、誠に過分なるご浄財を賜りましたことに心より御礼を申し上げます。

お陰様で予想を超え御記帳額が目標にほぼ近づき、住職、総代一同感謝と共に安堵しております。

当寺では平成27年に本堂向拝、正面階段の改修工事等、皆様には度々特段なるご負担をおかけしており大変申し訳ないことは重々承知ながらも、時限的な市の補助金制度の適用を受けるうちに、以前より内外の方々よりご指摘を受けていた前時代的な手洗いの水洗化を実現させるべく、この時期を逃すことなく一連の工事に着手する運びとなりましたことをご説明申し上げます。

9月13日に寺族、総代、施工業者様参列の下起工式を経て着工、本年10月の報恩講までの竣工を目指しております。



起工式で総代長の挨拶

工事遂行に際し、近隣始め地域の皆様には何かとご迷惑をおかけすることと存じますが、どうか御理解を賜りますよう伏してお願いを申し上げます。ある御門徒のお宅へお盆のお参りの時に工事の話題になり「今回お寺から来た工事の趣意書を見たとき、またお金がかかるのかと思ったけど、手洗いが水洗になるのは是非やった方がよい。いつも報恩講のお斎（食事）を戴くときにすぐ横が便所でいつも気になっていた。」という有難いやら申し訳ないやらの言葉を戴き尚且つ御寄進のお申し出を戴きましたことは、皆様の深い御理解によるものと重ねてお礼申し上げます。

当寺の手洗いについて、特に都市部からご来院された方、中でも汲み取り式に馴染みのない若い世代の方が驚き、中には我慢をする方もいるそうで、寺族は普段お寺のトイレを使用することはなく、皆様が不便に思っていることに全く気が付かず、今後共、出来ること出来ないことはございますがご指摘を戴きたくお願いを申し上げます。

明治の高岡開拓当初は鬱蒼と草木が茂り、それこそご自身の暮らしもままならい中においてもこの地に信仰の場を求め、何もないところから作り上げて下さったこのお寺が興隆発展を遂げ、私たちが快適な環境でお参りに集うことが出来まはひとえに累代のご門徒のご苦勞のお陰でありましょう。完成の折にはどうぞ今までに増して法要参拝や、葬儀、法要などに活用を戴ければ有難く宜しくお願い申し上げます。書中にて甚だ略儀ではございますがこの度の御浄財御進納の御礼とさせて戴きます。

尚、この度の御進納戴きました皆様の御芳名は次の機会にご報告をさせていただきます。

光明寺住職



9月16日 掘削工事



基礎ベースコンクリート(捨てコン)打設



浄化槽(10人槽)設置

お寺の日記

冬が終わり、例年6月からお寺や住職はにわかには忙しくなります。それまでは割合穏やかな日々を過ごしています。

【6月19～20日】親戚寺院の赤平市本恵寺で報恩講です。このお寺は光明寺前住職の弟(当寺の現住職の叔父・故人)が住職を務めていたお寺で今は長男が住職を務めています。赤平はいわば盆地のような地形で高岡と違い全くと言っていいほど風が吹かず、石狩より気温が2～3度ほど上がります。ここでは毎年、芦別のスターライトホテルに宿泊します。温泉が併設し風呂上がりには体の芯から温まり汗が止まりません。たまには一人の時間を過ごすのも良いものです。お寺へのお土産は光明寺の御門徒より高岡名産のブロッコリーを沢山分けて戴き持参し、御門徒さんへのお土産には赤平名物の「塊炭飴」を買って一泊二日の報恩講から戻り、その足で2ページに掲載の総代会全道大会へ行きました。



お土産のブロッコリーがお供えに

【6月21日】光明寺で親鸞聖人のお誕生を祝う降誕会(ごうたんえ)法要が、石狩市内の浄土真宗連合会寺院のご住職が集まり行われました。浄土真宗連合会は、お互いのお寺の法要にお参りし合う等活発な活動がなされており、来年には京都の各宗派の御本山への参拝旅行も予定されています。法要当日は正信偈のお参りの後、住職が1時間ほどご法話をお話させて戴きました。その後、婦人会のご協力で皆さんでお斎(食事)を戴き1日を過ごしました。

【6月22～23日】手稲区の真宗寺様の報恩講と住職継職法要(住職交代)です。大勢の御門徒の皆様ご参列の中盛大且つ和やかに行われました。しかし、前住職となられた打本道彦様ですが療養中の8月30日に行年73歳でご往生され仏様となられました。光明寺住職が幼い頃より可愛がってくださり、僧侶となってからも何かと気にかけて戴いた先輩でした。

【6月30日】恒例の日帰り研修旅行で締め怒涛の6月は一段落となります。(6ページに掲載)

【7月13日】札幌組の仏教壮年会連盟の研修会が、当別の勝圓寺様で開催され当寺より10名が参加しました。因みに勝圓寺様は住職の祖母の出身のお寺です。今回の研修テーマはむかわ町の法成寺ご住職より胆振地震の際の活動についてお話を戴きました。住職もじっくり聞かせてもらおうか、と思った矢先、毎年当寺の報恩講にお参り頂いていた、新琴似の花豊寺住職の松村



聡様急逝の一報を聞き駆け付けたため、全く研修は受けられませんでした。入院加療中でしたがまさか行年56歳の若さでお浄土へ往かれるとは想像すら出来ませんでした。なぜかこんな私を慕って下さりとても思い出深いご住職でした。弔問後、当別へ戻り合流。太美の Snackbar で2次会となり、約4時間飲んで歌って、1人 2,000円で飲み放題でした。これでお店がやっていけるのか心配になりましたが、皆元は十分取ったはずです。(確か春夏秋冬と書いてシーズンという店だったような…昼は喫茶店です)



太美のSnackbarで

【8月27～28】お隣の信教寺様の報恩講と、こちらも住職継職法要です。雅楽の生演奏の中、稚児行列が組まれ沢山のご門徒の皆様、お寺さんで練り歩きました。平成26年に前住職の石田瑛玄師がご往生の後信教寺の皆様には大変なご苦勞が続いたと思いますが、この度ご長女のえり子師が法灯を継承され重責を担っていくこととなりました。法要は前住職の瑛玄師の写真が見守る中、阿弥陀様の尊前で住職継職の決意を涙ながらに述べられる姿がとても印象的でした。信教寺のご門徒は勿論のこと、法中も安心と期待を抱く記念法要でした。書き終わって振り返ると月日の経つのは本当に早いと思わされます。住職も頭の中は20代ですが、実年齢は50歳になりました。内臓年齢は不明です。

毎年恒例の日帰り研修旅行に行ってきました!

6月30日、薄曇りの中、今年は小樽、余市方面へ行ってきました。朝8:30にお寺を出発し一路小樽へ、途中本願寺小樽別院を車窓から眺めながら正行寺様へ参拝しました。お寺は小樽市長橋という地区の、バスが登れないかと思うほどの急坂にあります。光明寺の報恩講仲間のお寺で、ご住職は岩本



さんといい光明寺の御門徒の岩本家のご親戚にあたります。僧侶になる前は企業勤務を経て『劇団四季』の劇団員として演じていた異色のお寺さんです。お坊さんにも色々います。当日はお参りの後、一般家庭出身の岩本師が僧侶を目指す過程から現在の住職としての活動、今後の展望までをお話し戴き、同じく劇団員だった坊守様との



デュエットをご披露、過去に出演されたテレビ番組のビデオを見て過ごしました。昼から子供さんのサッカーの予定の忙しいところ、本当に有り難うございました。



正行寺様を後にし、余市の中井観光農園でサクランボ狩りへ。今年は天候不順で一度は農園よりオープンが遅れるかも、と連絡がありました。なんと、前日の29日に営業開始したそうで、ありがたいことにたわわに実るサクランボに皆さんに喜ばれたようです。住職は初めてのサクランボ畑での粒の輝きにとっても驚かされました。(住職は果物アレルギーがあり、サクランボもダメです)それにしても低温の予報とは裏腹に気温が上がってきました。



続いては同じく余市の鶴亀温泉で昼食と入浴です。この日のメニューは海鮮丼です。入浴とセットとは思えないほど豊富な魚介が色とりどり(ご飯はちょっと少な目)。ご飯の後は元気に風呂へ入る人や一杯飲んで横になる人、ひたすらお喋りに夢中の人と思ひ思ひに過ごして戴きました。



今回の旅の最後は、小樽築港にある新南樽市場に立ち寄りしました。小樽市民の台所として活気ある市場ですが、さすがに夕方ともなると鮮魚はほぼ売り切れており少々寂しい光景でした。でも、市場の何とも言えない匂いや雰囲気っていいものですね。かつてうちの親戚が営んでいた青果店が入居していた麻生の市場を思い出します。



皆さん無事に午後6時前に光明寺へ到着しました。一番若い参加者は小学生、一番年長は誰でしょう? 今まで毎年のように参加してくれた方が高齢化で足腰が弱り参加できなくなる一方で、5名程初めてご参加のお陰で今年は全28名の大所帯で、住職が発注したバスが小型で全員乗れず、急遽お寺の車を出しそちらに4名乗車してもらい、2台での移動となりました。料金精算が済みバスを見送る際、運転手さんから「来年も宜しく願います。ただ、人数は間違えないように」と注文されました。この度ご参加戴きました皆様、有り難うございました。また、次回も御参加のほどよろしく願います。

念珠(数珠)について一考

浄土真宗では数珠と言わず、念珠(ねんじゅ)と言い、お寺に参拝する時や法事等の仏事の時は式章と共に欠かせない仏具です。念珠の持つ意味として、他宗派では「念仏の数を数えるため」「擦りならして煩惱を滅するため」などいろいろと使い方がありますが、浄土真宗では「ただ両手にかけて礼拝する」のが正式な使い方、じゃらじゃらと擦り合わせるような事はしません。

蓮如上人は「あなかしこ」でお馴染みの『御文章』に「念珠をせずに合掌することは仏様を驚掴みにするようなもの」と戒めておられます。

珠数の一連をも持つ人なし。さるほどに仏をば手把にこそせられたり。

念珠の珠はそのままではバラバラで収拾が付きません。念珠の珠は欲・怒り・愚痴の三毒の私たちのありのままを表します。どんな人にも108つ有るといわれる煩惱です。それらの珠をまとめている糸が信心を表しています。普段は108つの煩惱を持つバラバラなこの私も、阿弥陀様の智慧の糸が貫いて初めて綺麗にまとまった念珠を身に付けることで阿弥陀様に導かれ、清浄な心で手を合わすことができます。

念珠は法具なので大切に扱い、畳や廊下など人の足が触れる場所に直接置いてはいけませんし、トイレなど不浄な場にも持ち込んではいけません。お坊さんの教育現場でそのようなことが先輩僧侶に見つかることっぴどく叱られます。「出ていけ!」と言われることもあります。阿弥陀様からお預かりした大事な仏具なので丁寧に扱います。



浄土真宗で使う念珠
男性用は房無しを選びます。
男女ともに梵天は必要ありません。

念珠の紐が切れると縁起が…?

数珠の紐(糸)が切れると「縁起でもない!」と嫌悪感を示す人が多くいます。使用頻度が高いお寺さんは、年に何度も念珠の紐が切れます。住職は一旦切れた紐は捨てて紐の代わりにテグス(釣り糸)を通して切れづらくして使っています。切れたからといちいち気にしてられないし、商売道具? ですので切れる度に捨ててもらえません。

お陰様で住職もいまだ元気に過ごしているので、数珠が切れたからといって悪いことが起きるといっても無さそうです。長く使えば数珠の紐が切れるというのは自然現象であり、「縁起が良いも悪いもない」もありません。念珠の紐が切れると縁起が悪いと感じてしまうのは、一説に草履の鼻緒が切れると縁起が悪いと言われる事が関係しているかもしれません。土葬の時代、亡くなった人を埋葬するときにその土を踏んだ草履を履いて家に帰る事は汚れにつながるという考え方があり、鼻緒をその場で切って置いてくる風習があったそうです。以上のことから鼻緒が切れることと念珠の紐が切れることが混同されて「縁起が悪い」と連想されたのかもしれませんが。

念珠の紐一つ切れたからと縁起の良し悪しを気にして右往左往するのではなく、お釈迦様が示された「諸行無常」=世の中のいっさいの造られたものは常に変化し生滅して、永久不変なものはない、という教えを噛み締めることが大切です。基本的に念珠は直して使います。高価な場合はなおさらです。年に数回本山御用達のお店が訪問されるのでその機会にお預けし、手直しするのも良いでしょう。

令和元年度(2019~20)のご法座、行事予定

令和元 (2019) 年

10月19日(土)	午後1時~	報 恩 講 準 備
10月20日(日) ~21日(月)		親鸞聖人報恩講法要 布教使 三笠市善行寺住職 <small>ぜんぎょうじ</small> 名和康成師 <small>なわこうじょう</small> ※本年は日程を変更致します。ご注意ください。
10月20日(日)	午前11時	門 信 徒 物 故 者 追 悼 法 要
	午後1時30分	納 骨 堂 総 追 悼 法 要
11月17日(日)	午後1時	秋 季 永 代 経 法 座 布教使 札幌市覚英寺 <small>かくえいじ</small> 黒田顕城師 <small>くろだけんじょう</small>

令和2 (2020) 年

1月15日(水)	午後1時30分	宗 祖 聖 人 御 正 忌 法 座
1月16日(木)	午前11時	宗 祖 聖 人 御 正 忌 法 座 満 座
	午後1時30分	令 和 2 年 度 光 明 寺 定 期 総 会
	総会終了後	光 明 寺 新 年 会 (ご門徒は誰でもご参加下さい)
4月12日(日)	午後1時	春 季 永 代 経 法 要 布教使 三笠市善照寺 <small>ぜんしょうじ</small> 林寺正憲師 <small>はやしでらしょうけん</small>

寺に参ることはご先祖から課せられた私たちの務めです。

ご門徒皆様のお寺です。

自分一人の為の仏縁に出会いましょう。

皆様のお参りをお待ち申し上げます。

後記 今春、住職の長男が高校を卒業し新たな道を歩みました。住職の不徳により僧侶とは異なる道へ進みました。4~7月までは猛暑で有名な埼玉県熊谷市で研修生活を送り、7月より福岡県で勤務をしています。親バカならぬバカ親もいいところ、家族で研修の入退所式にそれぞれ熊谷へ行って来ました。御門徒の皆様より「お坊さんの学校へ行ったのかい?」と聞かれるたびに胸が痛みます。が、息子が本道を離れる際に息子がボソッと「お寺を継ぐのは今の仕事が終わってからでもいいんでしょ?」と申していました。次代のお寺はどうなっているのでしょうか。皆様若い世代も誘い報恩講に参りましょう。お念仏を次世代へ引き継ぐためにも…。 文責=住職です